

【心は何で、できている】



昨シーズンはそれほど雪が多くなかったのですが、今シーズンはけっこう雪が降っていて、子どもたちの雪遊びの様子を多くみかけます。

そこで、少し問題になってくるのが、雪合戦にまつわるトラブルです。

はじめのうちは、みんな笑顔でキャーキャー言いながら雪玉を投げ合っているのですが、ひとたび、顔などに当たって「痛い!!」と感じたら……。

もう目の色が変わって、雪玉を投げた相手に向かって鬼の形相で投げ返します。それも、もうどこに当てるとか、力の加減がどうかなど、お構いなしです。

そんな様子をしばらく見ていると、ふと思いました(もちろん、雪合戦が、それ以上エスカレートしないように見守りながらですよ)。

私も、このエキサイティングな雪合戦をしているチームとは別のチームで雪合戦をしていたのですが、私は投げ相手の名前を呼んで注意喚起して投げたり、雪玉を強く握らなかつたり、もちろん足元を狙ったり、またまた投げ合いは距離をとったりなどの配慮をしています。しかし、

このような配慮ができるようになったのはいつからなのでしょう？

そして、どうしてできるようになったのでしょうか？

「校長先生、大人なんですから」という声が聞こえてきそうですが……。では、どうして大人になると、このようになれるのでしょうか？(大人でも、昨今の事件を見ていたら、大人になっても、という方々は数多くいるように思えるのですが(‘_’))

たぶん、「こうしたから」と断言できる明確な回答はないですね。

私も、子どもの頃はもちろん、目の色を変えて雪玉を投げたり、ドッジボールを近距離で投げたりしたうちの一人です。でも、今まで私に関わってくれた方々のおかげや、私が経験したことなどで、このようなことに配慮できる人間に形成していただいたのだと思います(まだまだ欠点ばかりですが)。ふりかえてみても、「あの時の誰誰の、あの言葉」などとは覚えていないのですが、それでも、今まで生きてくる中で、何が正しくて、何が間違いで。また、人を思いやるとか、優しくするとはどのようなことなのかとか……。そんな様々な教えや立ち振る舞いを、今まで私に関わってくれた人々が言葉で、行動で教えてくれ、その積み重ねが、繰り返しが今の私となっていると思うのです。

いやあ、なんか、今回は回りくどい話になりましたが、少しまとめると「体はあなたが食べた物でできている」というCMみたいに言うならば、「心はあなたが関わったすべての人・もの・ことのでできている」とでもいいでしょうか。そして、心というものは一朝一夕で良くも悪くもならず、積み重ねの産物であるということをお願いしたかったわけです。

なので、雪合戦の定番であるトラブルは、まあ、無いにこしたことはないのですが、そのトラブルに関わった人たちがどのように対応していくか、そして、そこから何を学ぶのか、そこが大事だと思うのです。その積み重ねをすることで、「安全で、楽しい雪合戦ができる人」(大人ではないです)になれるはず(*^*)v
さて、さて、今回子どもたちは何を学んでくれたかな。

コロナ禍：昨年度も行ったのですが、6年生に朝の時間の15分ほど、4名ずつ校長室に来てもらって少し話をする機会を作っています。どんな話をするかという、小学校生活の一番の思い出とか、将来の夢、小学校生活でやっておきたいことなどの話をしています。

そこで、ここにも少しコロナの影響があるかなと思ったことがあります。それは、一番の思い出に「友だちと仲良く遊んだこと」、やっておきたいこと「みんなで遊ぶ」をあげてくれた子が多いことです。例年ならば断トツで「修学旅行」があがってくるのですが、コロナ禍で、子どもたちが、友だちとのかかわりをいつも以上に大切に求めている様子が感じられました。心が少し切なくなって、この欲求に少しでも応えていかねばと思う私でありました。

